

## 札幌市総合交通計画の目的と位置付け

### 1 - 1 計画の目的

札幌市を含む道央都市圏では、平成 18 年度より「道央都市圏総合都市交通体系調査協議会」(以下、協議会と称す。)を組織し、「第 4 回道央都市圏パーソントリップ調査」(以下、道央 P T 調査と称す。)を実施してきた。

少子高齢化の急速な進展、経済活力の低下、低炭素型都市の実現などの課題のあるなか、あるべき将来都市像を定め、これらを実現するため、「道央都市圏都市交通マスタープラン」が平成 22 年 3 月に策定された。

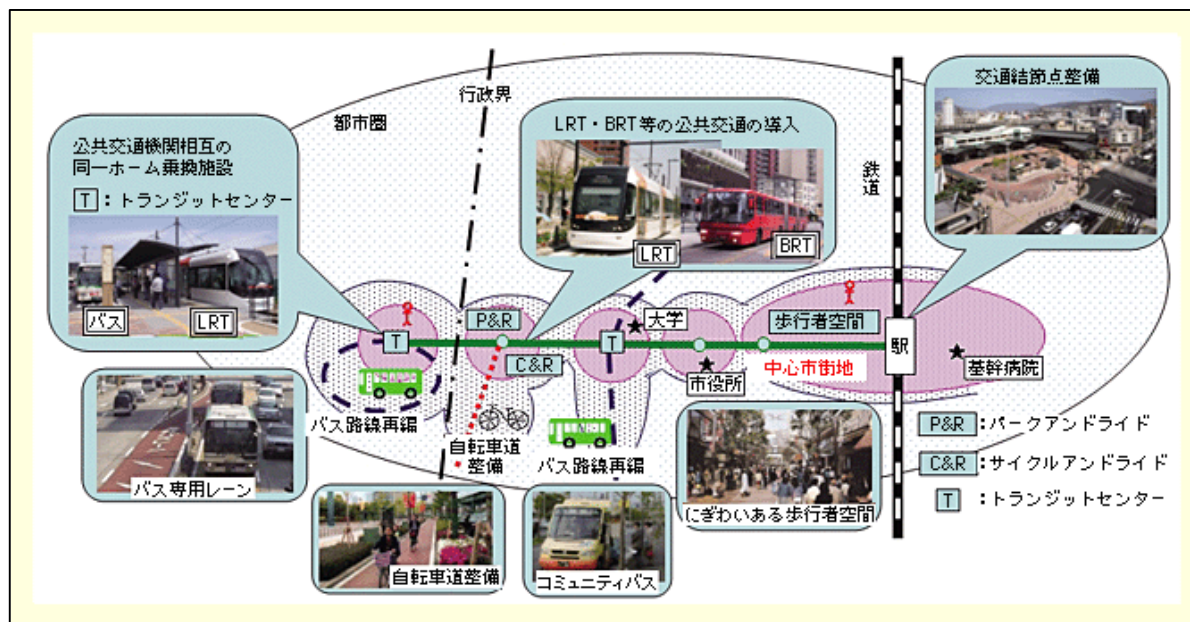
この策定を受けて、札幌市としてもパーソントリップ調査によって得られたデータを活用しながら、「第 4 次札幌市長期総合計画」や「札幌市都市計画マスタープラン」などの上位計画と整合を図り、札幌市独自の将来交通に対する基本的な考え方を整理するとともに、概ね 10 年間の短・中期計画となる交通戦略をとりまとめることを目的とする。

国土交通省 H P より抜粋

#### ➤ 交通戦略 (正式名称：都市・地域総合交通戦略)

地方公共団体が、道路管理者、警察、地元経済団体等の関係者で構成される協議会等において、魅力ある将来都市像と、その実現に必要なハード・ソフト一体となった交通施策や実施プログラム等を内容とする総合的な交通の戦略。

図 - 総合的な交通連携のイメージ



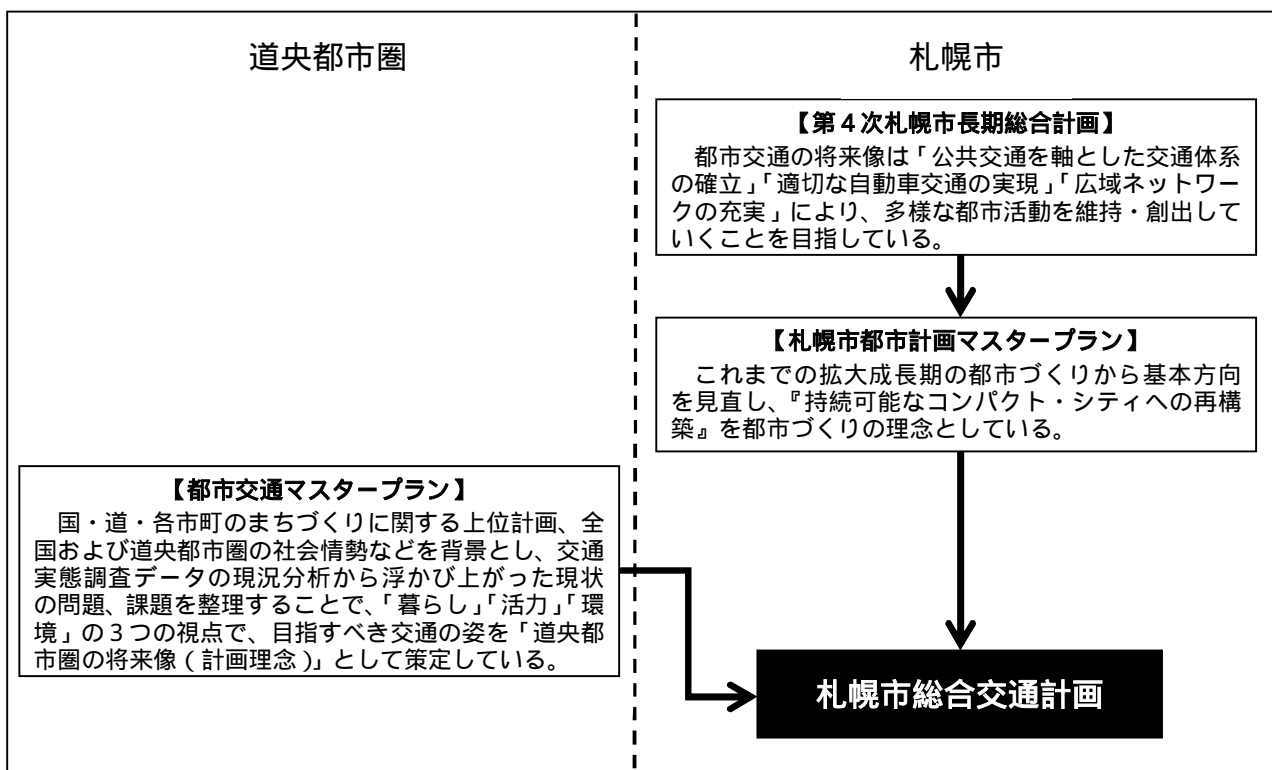
パーソントリップ調査：「どのような人が」、「いつ」、「どこからどこへ」、「どんな目的で」、「どんな交通手段で」移動しているかを把握することを目的とした調査。

都市交通マスタープラン：あるべき将来像を実現するための交通のあり方や今後の様々な施策・計画の方向性を示すもの。

## 1 - 2 計画の位置づけ

平成 22 年 3 月に道央都市圏「都市交通マスタープラン」が策定され、道央都市圏における「あるべき将来都市像」の実現に向けた交通に関する基本方針が示されている。

「札幌市総合交通計画」は、「札幌市都市計画マスタープラン」と整合を図りながら、札幌市におけるまちづくり施策等と連携し、札幌市を取り巻く様々な課題に対応した将来交通計画であり、あるべき将来都市像の実現に向けて、より効果的・効率的に事業展開が図れるよう各種交通施策を体系化（パッケージ化）した総合的な都市交通計画である。





## 1-3-2 札幌市都市計画マスタープラン

平成 16 年に策定された「札幌市都市計画マスタープラン」とは、第 4 次札幌市長期総合計画を受けて定める都市づくりの全市的指針である。

「札幌市都市計画マスタープラン」では、これまでの拡大成長期の都市づくりから基本方向を見直し、『持続可能なコンパクト・シティへの再構築』を都市づくりの理念としている。

その都市づくりの実現に向け、「成熟社会を支える都市づくり」「効果的な維持・管理が可能な都市づくり」「環境と共生する都市づくり」「地域コミュニティを高める都市づくり」を重視すべき観点としている。

都市づくりを支えるため、交通を取り巻く課題への取り組みとして、以下のとおり利便性の向上を進めることとしている。

### <基本方針>

#### 総合的な交通ネットワークの確立

- ・公共交通を軸とした交通体系を確立
- ・必要な道路の整備や自動車の流れの分散化などにより適切な自動車交通を実現
- ・広域的な交通ネットワークを確立

#### 地域特性に応じた交通体系の構築

- ・地域特性やまちづくりの方向を踏まえた交通体系を構築

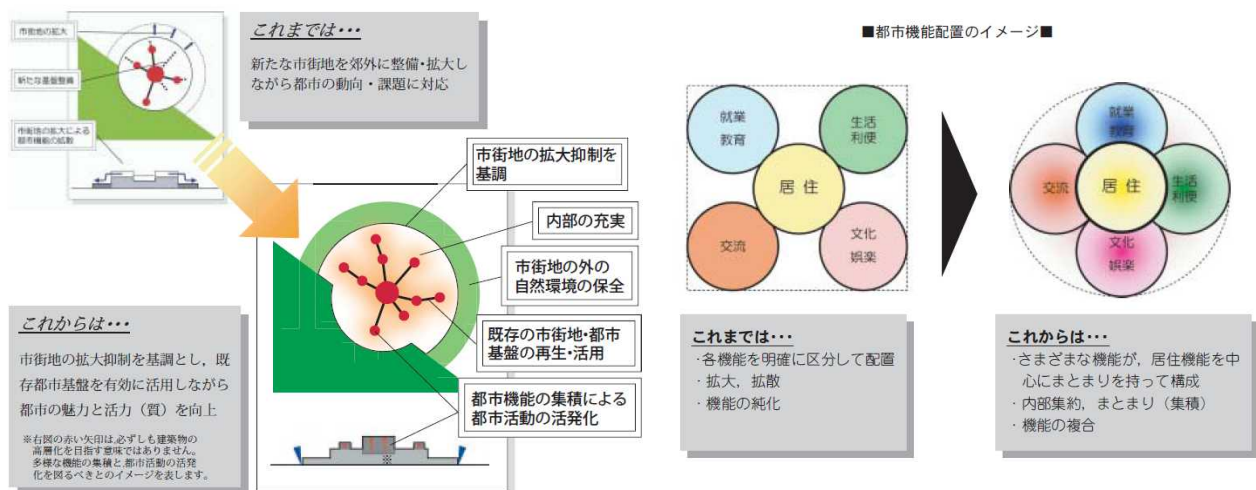


図 0-2 都市全体の視点（左図）と身近な地域の視点（右図）から見た「持続可能なコンパクト・シティ」

### 1-3-3 道央都市圏都市交通マスタープラン

札幌市を含む7市3町で構成される道央都市圏において、第4回道央都市圏パーソントリップ調査(2006-2009年)が実施され、道央都市圏における総合交通体系マスタープランが策定された。

このマスタープランでは、国・道・各市町のまちづくりに関する上位計画、全国および道央都市圏の社会情勢などを背景とし、交通実態調査データの現況分析から浮かび上がった現状の問題、課題を整理することで、「暮らし」「活力」「環境」の3つの視点で、目指すべき交通の姿を「道央都市圏の将来像(計画理念)」として策定している。

なお、これらのキャッチフレーズとして、3つの視点の頭文字をとり「道央 LIVE plan」と名付けられている。

#### 計画の必要性

人口増加に伴う経済成長からの転換

- ・人口減少下での持続的な発展
- ・グローバルな視点での競争力向上

超高齢社会の到来

- ・歩いて暮らせるまちづくり
- ・公共交通の維持

環境に対する意識の高まり

- ・環境負荷の少ない交通システム
- ・環境に配慮し、自然と共生する生活スタイルの実現

#### 今後の計画を考える上で必要な点

- ・視点の変換 : “つくる” “活かす”、“上手につかう”

#### 道央都市圏交通マスタープランの計画理念 ~道央 LIVE plan~

#### **暮らし** **Life**

日常生活を支える拠点(都心、広域交流拠点、地域中心核)において、地域特性に応じた多様な都市機能の集積を図り、北国の文化を引き継ぐとともに、お年寄りから子供まで誰もが、安全、安心に暮らすことができる、利便性の高い都市を目指す。

#### —都市交通の目指すべき姿—

- ・少子高齢化社会に対応した誰もが安全・安心に暮らせる都市構造・交通システムの構築
- ・多様なライフスタイルに対応した利便性の高い都市構造・交通システムの構築
- ・冬期や災害に強い都市構造・交通システムの構築

## 活 力

## Vitality

札幌都心には、道内・国内外と交流・連携する多様な機能の高度な集積を図る。

また、周辺地域の都市生活エリアや産業・流通拠点、田園地域との連携強化も図ることで北海道経済を牽引するとともに、持続的成長を支える都市を目指す。

観光、物流、医療などで大きな魅力や安心を有する拠点と、国内外との交流・連携を支える2空港、3港湾、新幹線駅との連携強化を図ることで、道内、国内、国外の様々な人と人、地域と地域が交流・連携する活力と躍動感あふれる都市を目指す。

### —都市交通の目指すべき姿—

- ・札幌都心部の高次都市機能（中枢管理、商業・業務、集客・交流機能など）の集積
- ・北海道の経済成長の持続化を支える圏域内拠点間、物流拠点間の連携強化
- ・グローバル化を見据えた観光の展開と産業・流通拠点の育成

## 環 境

## Environment

地球温暖化などの環境負荷を低減させるとともに、周辺市町に存在する日本海に面した長い海岸線、広大な石狩平野と背後の丘陵地における豊かな自然環境と共生しつつ、田園居住や芸術・文化交流といった創造的都市活動など多様なライフスタイルを実現できる都市を目指す。

### —都市交通の目指すべき姿—

- ・地球温暖化防止など環境負荷低減に対応した持続可能な都市構造・交通システムの構築
- ・公共交通の利用促進等による過度の自動車利用の抑制

